

発見! おごおり遺産

No.9 猿田彦と道祖神

今回のテーマは猿田彦神です。猿田彦神の信仰は市内にも多く見られ、一度は目にしたこともあるのではないのでしょうか。その信仰にどのような意味があるか探ってみましょう。



井上の猿田彦大神



乙隈天満神社の石碑



二森の歳徳神

皆

さんは猿田彦神(さるたひこのかみ)を知っていますか。『古事記』や『日本書記』の天孫降臨の場面に登場し、天照大神(あまてらすおおみかみ)から遣わされた瓊瓊杵尊(にぎのみこと)を道案内した神です。中世以降に道祖神としてまつられるようになり、行路安全、疫病退散、安産などさまざまな目的で信仰されてきました。

小郡市井上の井上公民館の前に、高さ約230センチ、幅約120センチの巨石が立っています。正面には「猿田彦大神」の文字が彫られ、左側面に「文化十癸酉歳十月吉日」とあることから、江戸時代後期の1813年に建てられたことが分かります。この場所は彦山道沿いの別れ道で、旅人の道中の安全を祈って建てたことが想像されます。なお、この巨石は古代に存在した井上廃寺の礎石を利用したものと考えられています。

このような「猿田彦」と彫られた大型の石は、市内で十数か所確認されており、井上や花立のように道沿いに建てられたものや、八坂の若宮八幡宮や吹上の大通宮のように神社の境内に建て

られたものがあります。

乙隈の天満神社境内には、「猿田彦命」と「天鈿女命」(あめのうずめのみこと)の名前が並んで彫られた石碑があります。天鈿女命は猿田彦の妻とされ、両者を併せてまつることで、安産などを祈ったものと考えられます。小郡の祇園神社境内にも同様の石碑があり、庚申神としてまつられています。

二森にある「歳徳神」は、天和元年(1681)の銘を持つ歴史のある石造物です。「歳徳神」は、年神・恵方神としてその年の福徳をつかさどる神で、正月に豊作を祈念することから、田の神・五穀豊穡の神としてまつる地域もあります。また災難を除き、幸福を祈ることから、塞の神・道祖神としても信仰されています。

他にも、下岩田にはサヤの木(棕の木)をご神体とした「サヤの神」がまつられ、その下に石造物が供えられています。「サヤの神」とは悪霊の侵入を防ぐ塞の神のことです。

江戸時代には、人々の暮らしのすぐそばに信仰があったことが分かります。

問合せ先 文化財課 ☎75・7555

おごおり遺産とは?》》近年の市内調査で「再発見」した文化遺産＝市民のたからのこと